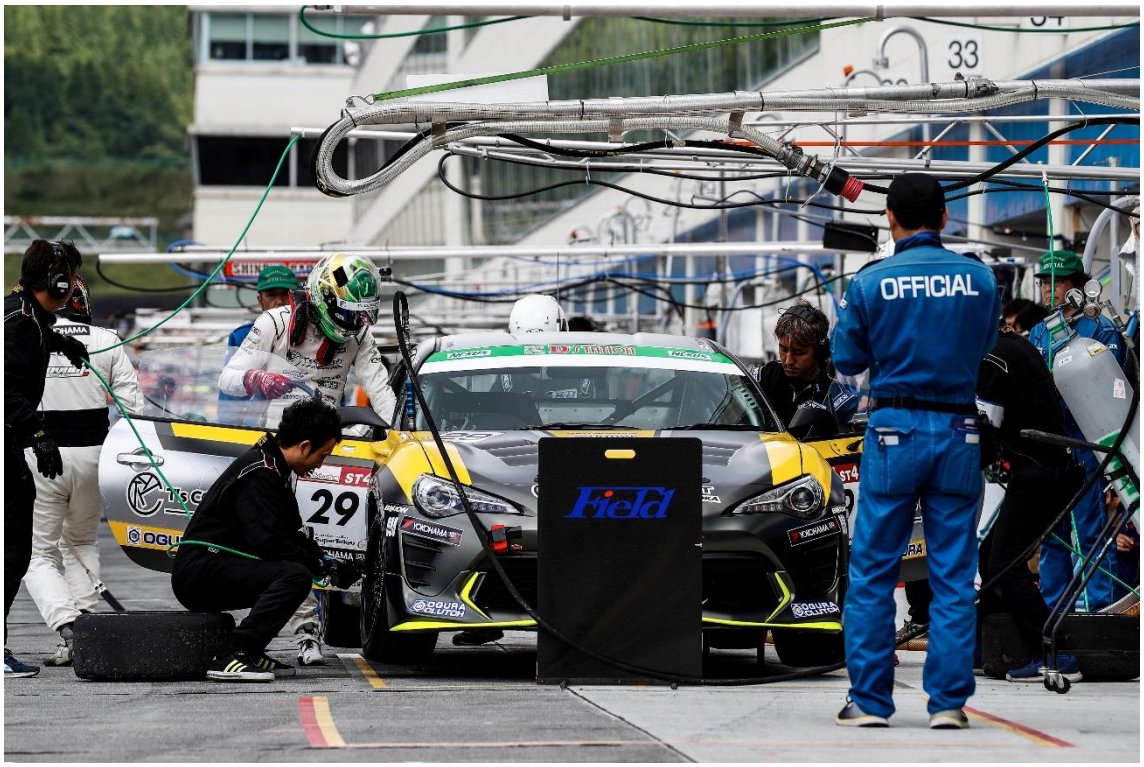
スーパー耐久シリーズ 2017
第 4 戦　オートポリス



東　徹次郎

TOHJIRO　AZUMA

ポイント獲得は逃したものの

一番手応えを感じとれた今回の決勝！！

・開催サーキット：Autopolis International Racing Course
（4.674km）

・レース時間：4 時間

・チーム：T’s concept

・マシン：T’s concept 86 (TOYOTA86)

・カーナンバー：＃29

・クラス：ST-4

・ドライバー：A 東　徹次郎　　B 松永　大祐　C 高橋　裕二

公式予選（7 月 15 日）

◆Weather：晴れ　◆Course：ドライ

今回は前日の占有走行でまずミッション交換、そしてエンジンパワーが突如落ちるというトラブルが出ていました。
予選前の 15 分のプラクティスでエンジンの問題は解決し、尚且つリアのスプリングを硬いものに変更して臨んだら、中古タイヤでも手応えが良く今年初めて 6 番手タイムで終われたので予選にも期待を持っていました。

予選はコースオープンと同時にコースインし、計測 1 周目を狙っていました。後ろに 55 号車がいたのですが間隔を取るのかと思いきや何とアタックラップで抜きに来られてしまい、タイムロスを最小限にして行かせましたがそれでも貴重なアタックラップでタイヤの良い状態のときにタイムを出すことが出来ませんでした。
自分もタイヤの熱入れの関係もありましたし前はクリアでしたのでそのままアタックに入ったのですが、お互いにタイムロスという最悪な 1 周目になりました。

2 周目は 5 クラスのマシンで詰まったのでクーリングラップにし、3、4 周目に再度アタックしましたが、午前中の良かったマシンフィーリングは無く、このレースウィークで一番ひどいアンダーステアに悩まされていました。
セットアップは朝一のままで、タイヤが New になったことと路面温度の上昇しか変わったことはないので、おそらくそれが要因で大きくバランスが変わったのだと思いますが、こんなにマシンバランスが変わってしまうとは予想外でした。

改めてセットアップにまだまだ課題の残る予選でした。
タイムも 4 周目に若干更新はするものの、タイヤの良い 1 周目のときにタイムを出せなかったことが、自分自身の課題として残ります。
結局 A ドライバー予選は自分の想定を大きく下回ってしまい、悔しい 10 位で終えました。
B ドライバー予選では松永選手が自己ベストを 3 秒更新してアタックを決めてくれたので A・B 合算で、9 位で決勝を迎えることとなりました。

予選結果：9 位　4’15.989（A・B 合算タイム）

A：2’07.422　B:2’08.567　C:2’11.134

決勝（7 月 16 日）

◆Weather：晴れ　◆Course：ドライ

今回 Gr-2 の 3 時間の決勝は 8 時半スタートという非常に早い時間でした。
決勝に向けて予選でアンダーステアが強かったので、リアのスプリングを少し柔らかくして臨みました。
作戦としては松永選手がスタート、高橋選手、自分という順番です。
松永選手は序盤バトルを展開し、しばらく後続を抑えての走りを続けていました。
スタートよりは少しポジションを下げてしまいましたが終始安定したラップで走行を続けてくれました。
約 55 分走行し、12 位で高橋選手へ。
高橋選手も途中からドライビングのコツを掴んだのか、10 秒後半のラップから 9 秒台に入り、安定して走行をしてくれて同じく 50 分ほどでピットへ。
残り 1 時間弱を自分が引き継ぎました。
松永選手からも、まだマシンはアンダーステアとのコメントがあったので、自分のときのピット作業ではフロントタイヤのみ交換し、リアタイヤはそのまま 2 スティント連続で行くことにしました。
13 位でコースへ復帰し、チェッカーまでの走行となります。
走り始めてすぐに、予選よりもマシンバランスが良いと確信しました。
前方に同じクラスのマシンが 4 台ほどいたのですが、マシンがこの週末を通して一番乗りやすかったので、4 台とも抜くことが出来ました。
今年初めてこんなにレースが出来たと思いますし、攻めた分タイムとバトルでの手応えを感じ取ることが出来ました。
途中上位陣のマシンに譲って後ろにつきましたが、もちろんまだスピードは足りませんが、今までのレースほど離されなかったと思います。
しかしながら残り 10 分くらいから左フロントタイヤのグリップが無くなり、そこからは厳しい展開で右コーナーがどこもアンダーステアでどんどん悪化していく方向で、我慢の走りでした。
最後ラップタイムは落ちてしまいましたが、無事にチェッカーを受けることが出来ました。
決勝でのベストタイムは予選とほとんど変わらなかったこと、そして最後のセッションでの周りとのタイムを比べると今回のレースは一番良かったので、セットアップの熟成が進めば予選でのパフォーマンスにも期待を持てる内容の決勝になりました。

自分のパートで 4 台は抜いたものの前半の遅れもあり、順位は 11 位でポイント獲得はなりませんでした。

決勝結果：11 位（自己ベストタイム：2’07.549）

反省

今回も予選では思わぬかたちで交錯してタイムロスしてしまったので、しっかりと予選を成功させるためにも 1 周目でしっかりタイムを出し切ることが自分の課題です。

決勝は今回攻める走りが出来たと思います。
しっかり自分の決めた抜くポイントでそれぞれ抜いてくることが出来たので、その辺は良かったと思います。

改めて実感しましたが、良い走りをするにはやはりマシンの仕上がりが一番重要になってくるので、最低でも今回の決勝のマシンバランスくらいには今後仕上げていくことが急務です。
しかしながら今回の決勝のマシンもまだタイヤへの攻撃性が強いのでお世辞にも良いとは言えません。

予選ではしっかりとタイムの出るマシン、そして決勝ではタイヤにも優しくハイペースで走れるマシンを作っていけるよう、チームと力を合わせて頑張ります。
ただ、我々は次戦の富士までにテストを行うことが出来ないので、いかに次のレースウィークも少ない時間の中でマシンを仕上げるかにかかっていると思います。

次回は 10 時間でドライバーも 4 人体制になり、乗る時間も更に少なくなるのでセットアップの効率を上げるためにも今回のデータもしっかりと活かしていきます。

最後に

　今回のレースもたくさんの応援、有難うございました。
自分自身久しぶりのオートポリスでしたが、決勝は良い手応えで終えることが出来ました。
そして震災などありましたが、またオートポリスでレースを出来たことを嬉しく思います。
次戦は地元富士スピードウェイで 9 月 2・3 日にあります。
そして最も過酷な 10 時間レースになります。
やっと今回の決勝では少しポジティブな感触も得ることが出来たので、次の富士ラウンドでは更に進化していけるよう頑張ります。
　2017 シーズンも残り 2 戦。
１つ１つ集中して全力で取り組んでいきますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2017 年 7 月 20 日

東　徹次郎